

# 議会からのお知らせ

問合先 議事課

☎ 052-603-0031

6年 第2回市議会定例会が開催されました



▲議案件名・会議結果一覧

## 令和6年度東海市一般会計補正予算（第1号）など13議案を可決

日程	内容	概要
6/10	本会議	・報告議案7件について報告、令和6年度東海市一般会計補正予算（第1号）など11議案を上程、説明
	議会運営委員会	・人事案件の候補者などについて協議
6/13	本会議	・一般質問（6人）
6/14	本会議	・一般質問（5人）
6/18	本会議	・6/10に上程された11議案に対する質疑、所管の各委員会に付託 ・加木屋調理場食缶消毒保管機の取得についての1議案を追加上程、説明、質疑、所管の委員会に付託
6/20	建設環境経済委員会	・付託議案を審査
6/21	文教厚生委員会	・付託議案を審査
6/25	総務消防委員会	・付託議案を審査
6/26	議会運営委員会	・令和6年第2回市議会定例会最終日の運営方法などについて協議
6/28	本会議	・付託されていた12議案について各委員長からの委員長報告、質疑、討論、採決 ・諮問議案1件を上程、説明、質疑、討論、採決 ・ハラスメント防止対策特別委員会の設置についてを提案、委員の選任
	ハラスメント防止対策特別委員会	・正副委員長の互選
	本会議	・互選結果の報告

今回可決された主な内容

■6年度東海市一般会計補正予算（第1号）

◎補正額…4億7,254万8,000円を増額

◎予算総額…596億3,554万8,000円

主な補正内容は、国の経済対策による定額減税の実施及び定額減税しきれないと見込まれる方への定額減税補足給付金を給付することなどの経費です。

そのほか、国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）、水道事業会計補正予算（第1号）などが可決されました。

■ハラスメント防止対策特別委員会を設置

新たにハラスメント防止対策特別委員会を設置し、8人の委員が選任されました。

- 委員長 早川康司
- 副委員長 蓑手純一
- 委員 中村義幸、秋葉みどり、成田佳勉、佐藤友昭、工藤政明、坂ゆかり



一般質問

第2回市議会定例会の一般質問は11人の議員からありました。その要旨は次のとおりです。なお、紙面の都合上、一部割愛させていただきましたので、ご了承ください。

**質問** 福祉避難所の数及び要支援者の人数と受入れ容量について

**答弁** 現在、福祉避難所は市内に18施設あり、6年度新たに2施設と協定を締結する予定です。

また、本市の避難行動要支援者数は、6年4月1日時点で2,505人で、これに対する避難所への受入れ可能人数は不足している状態ですが、福祉避難所ごとの受入れ対象者や受入れ可能人数については、協定締結から相当期間経過している施設もありますので、現在、各施設と改めて調整をしているところです。



**質問** 避難所生活の質を高めるために、小中学校以外の避難所にも段ボールベッドを配備することについて

**答弁** 段ボールベッドは、2年度に避難所における新型コロナウイルス感染症対策の観点から、密集・密接を防ぎ衛生環境を保つため、段ボール間仕切りと合わせて購入したもので、市が指定する26箇所ある拠点及び予備拠点避難所のうち全18小中学校に50個ずつ配備し、そのほかの避難所8箇所分として、400個を中央防災倉庫に配備しています。

段ボールベッドを配備している小中学校については、通路や段ボールベッドの間隔・共有スペースなどのレイアウトを考慮すると、50セット以上設置することは困難であるため、各避難所に50セットを配備しています。

小中学校以外の避難所については、段ボールベッドの保管場所が課題となっていることから、施設管理者と協議し可能な限り配備できるよう進めていきたいと考えています。

**質問** 屋内の子どもの遊び場施設の整備の検討について

**答弁** 近年は、極端な気候変動や家族の生活スタイルの多様化などで、子どもを取り巻く社会状況が大きく変化しています。

季節や気候を問わず、子どもがのびのびと体を動かして遊び、健やかに育つ環境を整備し、子どもと大人がともに心地よく過ごせる魅力的なまちづくりを推進するため、屋内の遊び場施設の必要性は、ますます高まっていると考えています。

そこで、昨年度、県内にある駅前商業施設を活用した遊び場の現地視察を始め、職員による勉強会を実施して、市内の子どもの遊び場の現状や施設の必要性、目的などについて整理しました。

屋内の遊び場施設の整備にあたっては、子育て世代が共感できるコンセプトの確立や、遊びをとおして創造性などを育む魅力的なコンテンツの提供、民間施設も含めた既存施設の利活用、児童館を始めとした既存の子育て施設との役割分担などの整理が必要です。

今年度も引き続き、子どもたちの健全な成長と発達を支援するだけでなく、本市の魅力向上と活性化を図るために、安心して遊ぶことができ、誰もが繰り返し足を運びたいと思えるような屋内の遊び場施設について検討していきます。



**質問** 児童生徒を犯罪や事故から守るための地域との連携及び体制づくりについて

**答弁** 子どもは、成長とともに通学や友達との外出により親元を離れる機会が増える中、犯罪や事故に巻き込まれることなく安全に生活するためには、地域との連携及び体制づくりが重要であると考えています。

そのような中、コミュニティの組織では、小中学校の教職員が一員として位置付けられており、町内会長や自治会長と、危険箇所や校区内で起きた事件・事故の情報共有を図っているところです。

また、小学校における取り組みでは、学校支援協議会を

始め、PTAやシニアクラブなどによる学校のスクールガードとして、児童の登下校を見守っていただいています。

現在、本市では、コミュニティを中心とした地域運営体制づくりを進めており、モデル地区である緑陽コミュニティでは、児童の下校時を中心に、青色防犯パトロールカーによる地域の見守り活動を積極的に実施していただいているなど、各コミュニティにおいても、地域が自ら子どもの安心・安全を確保していけるよう、コミュニティ、町内会・自治会の関係者と連携を図り、地域が一体となった防犯力の向上に努めているところです。



**質問** ひきこもりの悩みを抱えながらも支援につなげていない家庭への支援について

**答弁** ほっとプラザでは、従来の来所や電話による連絡方法に加え、若者が多く利用しているSNSの1つであるLINEを使用した窓口を設置しており、5年8月から6年3月までの相談件数は延べ38件で、今後も対面や電話でのコミュニケーションが苦手な人が利用しやすい手段について、関係機関とも連携しながら調査・研究していきます。

ほっとプラザ  
対人関係など  
悩んでいませんか？

▲ HP ▲ LINE

**質問** こども家庭センターへの心理職の配置による効果について

**答弁** 近年は、集団生活の中で、個別的な配慮を必要とする子どもが増加し、障がい児を専門とした分野に限らず、保育所や放課後児童クラブなど、子どもに関わるすべての支援者に、子どもの発達や特性への理解、一人ひとりにあった個別支援のスキルの向上が、一層求められています。

このような状況から、6年度、こども家庭センターを設置し、心理職を配置することで、幅広い支援者に対して、心理発達に関する知識や支援技術の提供が可能となり、子どもをより深く理解することにつながるものと考えています。

また、具体的な場面をとおして、子どもの示す反応や、行動の背景にある発達特性や心理状態、適切な環境設定などを助言することで、これまで気づかれなかった関わり方のポイントやアイデアが発見され、市全体の支援者の対応力が向上することを望むものです。

さらに、支援者が対応に難しさや不安を感じた場合には、心理職が支援者の相談に応じたり、支援内容を確認したりすることで、支援者の不安や負担が軽減され、子どもとの関わりに自信が持てるようになるものと認識しています。

心理職は、子どもの行動観察や面談での言動と、発達検査などの客観的な情報を組み合わせ、発達や心理における課題を分析し、専門的見地から、望ましい支援方法を見出すことが期待され、心理職がほかの専門職とともに対応を考えることで、より良い支援の提供が可能となるため、保護者の安心や子どもの健やかな成長につながるものです。



**質問** 教員不足が児童生徒及び教員に与える問題について

**答弁** 各学校において、教員が未補完となった場合には、学級担任などの業務を行わずに、授業のみを行う非常勤講師を任用したり、主任職である校務主任や教務主任が学級担任を務めたり、また、現在配置されている教員の

担当授業時数を増やしたりすることなどによって、対応しており、結果として、当該の学校の多くの教員に負担を強いることになっています。

そして、これに伴い、児童生徒とふれあう時間や、授業準備に充てる時間が少なくなることが、大きな問題であると考えています。



**質問** 名半バイパスにおける富木島町伏見周辺の4車線化の進捗状況及び地域の意向把握について

**答弁** 市内全線開通した翌年の5年度から、4車線化整備に向けて、県と随時調整を図り整備を要望しているところですが、

県では、5年度に、伏見一丁目交差点を始めとする3箇所で交通量調査を実施し、6年度は、4車線化整備に向けた調査・設計委託が予定されています。

市としても、5年度に地域の代表の方々との意見交換を行った際に、名半バイパスが渋滞するため、生活道路を抜け道として利用する車両が多いとの意見などから、4車線化に向けて前向きであるものと認識しているところです。

4車線化の整備に向けては、地域の意向把握や地域の方々の理解と協力が必要不可欠と考えており、引き続き意見交換などにより、地域の意向を十分把握した上で、県と事業実施に向けて調整を図っていきます。



**質問** 防犯用具の設置費用を補助対象とする考えについて

**答弁** 6年の市内犯罪発生状況を分析すると、近年減少傾向にあった侵入盗が再び増加に転じていることや、今年に入り自動車盗が市内各地で増加している状況が見られます。

市としましては、警察とコミュニティとともに、一体となって地域の防犯活動を強化することに加え、各家庭においても、自宅の防犯対策について改めて話し合い、増加傾向にある犯罪に対して、積極的に防犯対策に取り組んでいくことが、地域全体の犯罪抑止力をさらに高め、安心安全なまちづくりにつながるものと考えています。

それらを踏まえ、多発する侵入盗の被害防止に有効な防犯カメラやセンサーライトの設置費用、自動車の盗難防止に有効なセキュリティ機器の取り付けなどにかかる費用についても補助対象として含め、市民の皆様の大切な財産が失われることがないように、補助制度の拡充を図っていきます。



**質問** 駅のホームドア設置における補助制度及び必要性について

**答弁** ホームドアについては、国土交通省では、3年5月策定の「第2次交通政策基本計画」において、1日当たり平均利用者数が10万人以上の駅など、優先度が高いホームにおいて、整備の推進を目標として掲げています。

補助制度としては、ホームドアまたは可動式ホーム柵の整備に要する経費に対し、補助率を1/3以内とする支援により、さらなる整備促進を図っているところです。

また、県では、4年2月策定の「あいち交通ビジョン」において、バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化の推進の中で、ホームドア整備の支援を掲げており、ホームドアを整備する鉄道事業者に補助金を交付する市町村に対して、市町村が交付する額の1/3、ホームドア1列当たり上限3,000万円を交付する補助制度を実施しています。

名古屋鉄道(株)では、多種多様な車両や異なるドア位置などが課題であることから、ホームドアの実証実験を実施しながら、1日当たり平均利用者数が10万人以上の駅とな

る名鉄名古屋駅及び金山駅において、整備の検討を進めると聞いています。

市としては、ホームドアの設置は、ホームにおける安全性の向上には必要な整備と考えていますので、今後、市内で乗降客数が一番多い太田川駅での設置の可能性について、名古屋鉄道(株)の動向を注視していきたいと考えています。



**質問** 加木屋中ノ池駅周辺にトイレ及びエスカレーターを設置する考えについて

**答弁** 駅利用者のためのトイレについては、7年度末に開業を予定している南改札口側の、駅前広場付近に設置を予定しています。

なお、それまでの間については、北口付近に仮設トイレを間もなく設置していきます。

また、エスカレーターについては、鉄道駅におけるバリアフリーの観点から、車椅子やベビーカーの方などが、安全かつ快適に利用できるエレベーターを設置していますので、現在のところは、エスカレーターを設置する考えはありません。



▲ 6/29 (土) に設置した仮設トイレ

詳しい質問の内容については、QRコードをご覧ください。

